

今金町玄関口美利河地区における「クアプラザピリカ」の交流拠点としての役割強化に向けた提案

交流チームのミッション

北海道新幹線の延伸には、道南エリアの観光振興へ大きな期待が寄せられている。そこで、今金町の玄関口となる美利河地区における観光客誘致および交流人口を増やすための総合的な観光振興ツールを考え提案する。

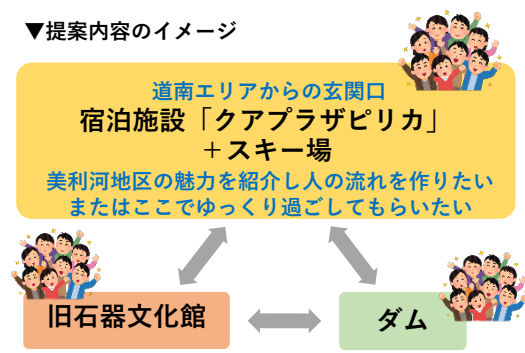
中学生の思い

「今の町民、そして未来に地元で持ちたい家族のためにスキー場は残してほしい」という譲れない熱い思いが聞かれた。

提案内容

美利河地区の主な観光資源は以下3つ。中でも宿泊施設「クアプラザピリカ」は、温泉があることから人々がよりたくなるストップ的機能がある。また地理的にも道南エリアからの玄関口でもある。以上の理由から、観光客だけでなく地域住民も集まる互いの交流拠点の役割を持たせたいと考えた。

▼提案内容のイメージ

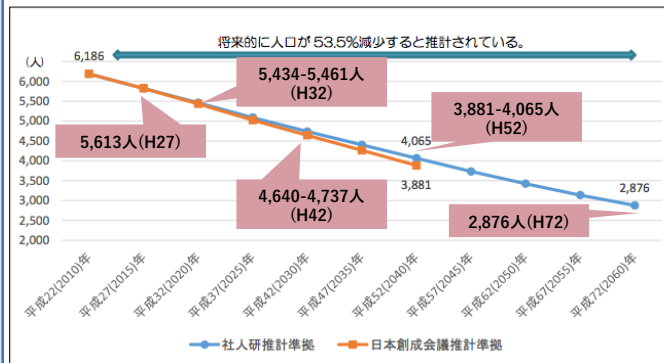


<交流チーム> 今金中学校:西田知樹・岩橋龍佑 札幌国際大学観光学部:田中智也・石塚陽太・チェユビン・馬場晴菜

データからみた今金町の課題と提案の方向性

◆加速する今金町の人口減と続く高齢化問題
→高齢者も意識した多世代にとっての住みよいまちづくりの展開

今金町の将来人口推移



出典：今金町人口ビジョン(2015)

・平成27(2015)年の町の人口は5,613人であるが、その5年後の平成32(2020)年には約5,400人、さらにその10年後の平成42(2030)年には約4,700人と人口減は加速すると予測され、中学生が60歳を迎え平成72(2060)年頃には約2,800人と発表されている。=2010年の人口と比較すると53.5%の減少。
・人口に対する年齢構成の割合を調べると、現在と同様に常に老年人口といわれる高齢者の割合も高い状況が続くことから、高齢者も含めた多世代にとってのまちづくりが必要と考えた。

◆北海道新幹線開業効果を感じ取れる町になるための周辺地域とは違った観光まちづくり



出典：観光経済新聞(2017.9.9)

・北海道新幹線開業に伴い、函館市に加え近隣の七飯町、北斗市では過去最高の観光客数と宿泊数を記録している。その直接消費増収効果は2016年度で272億円。(函館商工会議所資料)
・開業によるプラスの影響は、北斗市、七飯町、せたな町までは報告されているが、今金町の観光客数はそれほど大きな増加はない。(観光経済新聞)
・函館から車で2時間かけて訪れてもらう何かが必要

交流拠点としての役割強化に向けた具体的提案

【夏の具体的提案】

新たな観光とビジネスと雇用を生み出す
スキー場菜の花一面プロジェクト

- ・スキー場傾斜に菜の花を植え観光客が少ない5-6月の新たな町の観光資源として立体感ある景観の創出
- ・菜の花の景観を楽しんだ後も、菜の花を刈る→油→商品→燃料として使用する「循環サイクル」を構築し、地域のビジネスとして雇用も創出



▲雪菜の花畑「菜のテクノロジープロジェクト」を事例にイメージ

【「牛の放牧」も検討しましたが断念・・・】
～長野県山田牧場スキー場の事例から～

中学生が一番興味を示していた「スキー場での牛の放牧プロジェクト」についても電話ヒアリングをし検討しましたが断念しました。
【理由1】牧草の管理が単年度ごとで手間暇が想像以上にかかること
【理由2】事業として成り立つまでに多額な設備投資や準備時間がかかりすぎること
【理由3】今金町には既に酪農産業があり、地域の既存産業と競合してしまうこと

【冬の具体的提案】

道南エリアからの外国人観光客と
地元多世代が集うコミセン



和のテイストを取り
込んだスキー場整備



スキー場+温泉



文化センター
+健康相談室

◆Point1:「和テイストを取込んだスキー場整備」

- ・外国の観光客をターゲットにし日本らしさを感じられるスキー場にする
- ・和風の食べ物販売を行う
Ex)おでん、おしるこ、お餅など
- ・しめなわ、かまくら体験&講座
- ・老若男女が楽しめる多世代それぞれが冬を楽しめる仕組みづくり

◆Point2:「スキー場+温泉」

- ・若者→スキーメインのパッケージ
- ・高齢者→温泉メインのパッケージ
(高齢者は雪の上を軽く歩くプチ運動メニューを用意)

◆Point3:「文化センター+健康相談室」

- ・外に出て同じ興味を持った人と交流できる場づくり
=寒くない冬生活を提供
- ・健康について気軽に相談できる場を設ける